

## 必ず読んでください

### 麻しん（はしか）風しん混合ワクチンの予防接種についての説明書

#### 1. 病気について

◇麻しん（はしか）は、麻しんウイルスの空気感染によっておこります。感染力が強く、予防接種を受けないと、多くの人がかかる病気です。発熱、せき、鼻汁、めやに、発しんを主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うとまた39～40℃の高熱と発しんが出てきます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発しんも消失します。しばらく色素沈着が残ります。

主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。また、麻しんは医療が発達した先進国であっても、かかった人の約1000人に1人が死亡するととも重傷の病気です。

◇風しんは、風しんウイルスの飛沫感染によっておこります。軽いかぜ症状ではじまり、発しん、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。発しんも熱も約3日間でなおるので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。

合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。

大人になってからかかると重症になります。また、妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります。

#### 2. ワクチンについて

麻しん及び風しんの混合ワクチンを、抗体価を持続する目的で期間をおいて2回接種します。

副反応の主なものは、発熱と発疹です。なお、これらの症状は接種後4～14日に多くでます。他の副反応として、注射部位の発赤・腫脹・しこりなどの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、熱性けいれんなどがみられます。これまでの麻しんワクチン、風しんワクチンの副反応のデータから、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどが、まれに生じる可能性もあります。

#### 3. 接種回数と間隔

第1期：生後12か月～24か月未満のお子さん

第2期：小学校就学前の1年間（幼稚園、保育所の年長児）

#### 4. 以下のことに注意してください

- ① 予防接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。分からないことは接種を受ける前に質問しましょう。
- ② 接種に連れていく予定にしているも、体調が悪と思ったら、やめましょう。
- ③ 子どもの日頃の状態を知っている保護者の方が連れていきましょう。また、卵などの食品や、薬などにアレルギーがないか日頃からよく注意をして見ておきましょう。
- ④ 予診票はお医者さんへの大切な情報です。責任を持って記入するようにしましょう。
- ⑤ 母子健康手帳は必ず持っていきましょう。母子健康手帳がないと接種できません。
- ⑥ 接種後は、30分間は接種場所で子どもさんの全身状態を観察しましょう。

#### 5. ワクチンについて予防接種による健康被害救済制度について

定期接種によって引き起こされた副反応により、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

給付申請の必要が生じた場合には、大田市健康増進課へご連絡ください。